

新型コロナウイルスが流行し、世界は大きく変わってしまいました。

医療従事者の感染が相次ぎ、感染の恐怖や際限のない感染対策、過酷な労働環境から、看護師の離職が増えていることをニュースで知りました。本当に大変な事態だと思います。

それでも私にはあきらめたくない夢があります。それは、看護師になることです。看護師を目指すきっかけになったのは、小学五年生の時に友人を亡くし、病气と闘う人の役に立ちたいと思ったからです。さらに看護師になる夢をより強く持つようになった出来事がおこったのです。

私の母は看護師です。夜勤もこなし、忙しそうにしながらも私たちの悩みを聞き、好きな料理を作ってくれ、家の掃除が趣味というパワフルな母です。そんな母がある時、病气になってしまいました。入院した日の朝も私のお弁当を作り、元気に送り出してくれました。学校に祖母が迎えに来てくれた時、母が入院したと聞かされました。「冗談だろう。」

と初めは信じられなかったのですが、後ろの席で泣いている妹の姿を見て、現実なのだと思い知らされました。

母が退院するまでの十一日間は、短いようでとても長く、いつも母のことを考えていました。それは私だけではなく祖父母も父も妹も同じ思いでした。

「元気に帰ってきてほしい。」
と毎日願いました。母がいない家は何となく暗く、どんどん汚れていきました。そして何より、これからどうなってしまうのか不安でしかたありませんでした。そんな思いを悟り、ある時父が私たち姉妹を散歩に誘ってくれました。好きな音楽を聴き、歌いながら歩くのが楽しかったのですが、心は晴れませんでした。やはり母の存在は大きいのです。身内が病气になるのは初めてでした。家族はこんなにも心配で暗い気持ちになるのかと知りました。

無事に退院した日、どれだけ安心したか。この思いは一生忘れないでしょう。入院中の出来事を母に聞いてみました。予想もできない出来事で心が折れそうになった時、救ってくれたのは家族の存在と看護師さんをはじめ医療従事者の方々の温かい声掛けだったそうです。母は患者さんの立場を知ったからこそ、一つ成長して、また看護師の仕事を再開したいと言いました。

私は看護師を目指します。

「大切な人を失った悲しさを知っている。そして今回、大切な人が入院したとき、親や子供、家族がどんなに不安になるのかも知ることが出来た。だからこそ母を支えてくれた看護師さんたちのように、大切な命をつないであげられる存在になりたい。そのため、今私がすべき事は、看護師を極められるように勉学に励むこと。感性豊かな看護師になれるように、多くの人の思いに耳を傾けること。そしていつでもどこで

も誰にでも、その人の心を想像し、思いやりをもって接すること。」
「まだまだ、ドジでおっちょこちよい、暗い所が怖く一人にいるのも苦手な私です。
しかし、一生懸命努力して、母のような強い意志と優しさにあふれた看護師になりたい。
い。新型コロナウイルスになんて負けない看護師に。」